

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	プレイジム		
○保護者評価実施期間	2025年9月3日	～	2025年9月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	2025年9月3日	～	2025年9月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2025年9月3日	～	2025年10月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	40	(回答数) 40
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>個別性の高いアセスメントと計画立案</p> <p>保護者・訪問先施設ともに「特性理解が深い」「困りごとに沿った計画が作成されている」と高く評価している。標準化ツールと日常観察を組み合わせ、保護者の意向や訪問先の環境を踏まえた計画立案が行われている点は大きな強みである。訪問先からも「発達段階に応じた説明」「視野が広がる助言」が寄せられ、専門性に裏付けられた支援が信頼につながっている。計画作成時には複数職員が参加し、共通理解のもとで検討が行われている点も支援の質を支えている。</p>	<p>学校・園での姿を丁寧に観察し、保護者面談で得た情報と統合してアセスメントを行う体制を整えている。標準化検査を必要に応じて実施し、根拠に基づく支援計画を作成している点が特徴である。また、訪問先の担任や担当者の意向を計画に反映するため、事後評価面談や計画案検討会議を必ず設けている。支援内容は現場で実際にやって見せる形で提案するなど、実践的でわかりやすい工夫が行われている。</p>	<p>アセスメント記録にばらつきがあるため、観察内容の記録方法や評価基準の標準化が求められる。訪問先からは「担任との会話内容が見えにくい」との声もあり、計画立案過程の透明性を高める工夫が必要である。記録フォーマットの統一や、計画作成時の情報共有手順の明確化により、支援の一貫性と精度がさらに向上する。外部専門家との連携を強化し、アセスメントの質を高める取り組みも今後の充実につながる。</p>
2	<p>保護者・訪問先との信頼関係と丁寧な連携</p> <p>保護者からは「丁寧な報告」「共通理解ができて」「安心して相談できる」との声が多く、訪問先からも「質問に誠実に対応」「すぐ実践できる助言」と高い信頼が寄せられている。連絡票・メール・電話など複数の手段で情報共有が行われ、相談体制も整っている。訪問支援が子どもの登校継続や園生活の安定につながっているとの評価も多く、家庭・学校・園をつなぐ役割を果たしている点が大きな強みである。</p>	<p>支援後には必ず保護者へ連絡票を送付し、必要に応じて追加の電話やメールでフォローしている。訪問先施設とは、支援中や終了後に短時間でも情報交換を行い、困りごとに対して迅速に助言できる体制を整えている。保護者評価を受けて「顔を合わせた機会を増やす」など、フィードバックを改善に反映する姿勢も特徴的である。家庭と学校・園の橋渡し役として、双方の意向を丁寧に調整している。</p>	<p>訪問先とのやりとりが保護者に十分伝わっていないとの声があり、共有方法の改善が必要である。訪問先との支援内容に関する合意内容や進捗状況等を簡潔にまとめた共有シートの導入が有効となる。また、訪問日程の見通しが持ちにくいとの意見もあるため、次回予定の早期提示や支援期間全体の大きなスケジュールの提示など、保護者が安心できる情報提供体制の強化が求められる。</p>
3	<p>専門性の高い支援と職員研修の充実</p> <p>訪問先からは「専門的な視点での助言」「発達段階に応じた説明」「自分にはない視点をえられる」と高く評価されている。言語聴覚士を中心とした専門性の高い支援が、子どもの困りごとの軽減や職員の視野拡大につながっている。法人内外の研修機会が確保され、職員の学びを支える環境が整っている点も強みである。困りごとに対して一緒に考える姿勢が信頼を生み、支援の質を支えている。</p>	<p>K-ABCⅡなどの評価結果を活用し、根拠に基づいた支援方法を提案している。訪問先の保育・教育課程を理解した上で助言するなど、現場に即した支援を意識している。法人内研修や職員同士の勉強会を定期的に開催し、専門性の向上に努めている。困りごとに対しては即答できない場合でも後日丁寧に回答するなど、誠実な対応を徹底している。</p>	<p>専門性の高い支援を維持するためには、継続的な研修機会の確保と、外部専門家との連携強化が必要である。多人数学級や授業場面での支援方法についての要望も多く、教育現場に特化した研修の導入が有効となる。また、教材開発や支援方法の共有を体系化し、職員間で知識を蓄積できる仕組みを整えることで、支援の質をさらに高められる。</p>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>職員配置の不足と専門性の偏り</p> <p>利用希望者に対して職員数が十分ではなく、特に言語面の支援ニーズに対して専門職が不足している。自己評価でも「増員が必要」と明確に課題として挙げられている。保護者からは支援頻度を増やしたいという声がある一方、事業所側からの提案が少ないとの指摘もある。専門性の偏りは支援の幅を狭め、計画立案や支援実施の負担が特定職員に集中する要因となっている。</p>	<p>訪問支援は個別性が高く、専門職の関与が不可欠である一方、採用が難しく人員確保が追いついていない。利用希望者の増加に対して体制整備が追いつかず、支援頻度の調整や計画立案が特定職員に集中している。訪問支援は移動時間も多く、効率的なスケジュール調整が難しいことも負担増の要因となっている。専門性の偏りにより、他職員が十分に役割を担いきれない状況が生じている。</p>	<p>専門職の増員に向けた採用強化と、既存職員が専門性を補完できる研修体制の整備が必要である。言語聴覚士が立案した計画を他職員が実施できるよう、役割分担の明確化とスキルアップ研修を進める。訪問スケジュールの最適化や、オンラインでの事前打ち合わせ導入など、業務効率化の工夫も求められる。支援頻度の希望を丁寧に聞き取り、可能な範囲で調整する仕組みを整えることが重要である。</p>
2	<p>支援前後の打ち合わせ・情報共有の徹底不足</p> <p>自己評価では「必ず行われているわけではない」との記述があり、保護者からも「担任との会話内容が見えにくい」との声がある。訪問先との情報共有は一定程度行われているものの、形式化されておらず、支援内容の透明性や一貫性に課題が残る。複数職員が関わるケースでは共有不足が支援の質に影響する可能性がある。</p>	<p>訪問支援は時間制約が大きく、支援前後の打ち合わせに十分な時間を確保しにくい。単独訪問が多いため、情報共有の程度が担当者によって変わりやすく、記録の書き方にもばらつきが生じている。支援シートは存在するものの、運用が徹底されていない状況が見られる。</p>	<p>支援前後の打ち合わせを必ず行うルール化と、短時間で共有できるフォーマットの整備が必要である。記録フォーマットの統一により、情報の質と一貫性を高めることができる。職員間での情報共有を定例化し、組織的な支援力を強化することが求められる。</p>

3	<p>訪問支援に特化した安全体制・マニュアルの未整備</p> <p>保護者評価では「緊急時対応が見えにくい」「安全計画の周知が不十分」との回答が多く、自己評価でも「訪問支援に特化したマニュアルがない」と明記されている。訪問先施設との連携は一定程度あるものの、非常時を想定した訓練が実施されておらず、安全管理体制に課題が残る。訪問支援は環境が多様であるため、リスク管理の仕組みが不可欠である。</p>	<p>訪問支援は通所支援と異なり、施設ごとに環境が大きく異なるため、統一したマニュアルを作成しにくい。これまで大きな事故がなかったこともあり、緊急時対応の整備が後回しになってきた。訪問先との役割分担が明確でないケースもあり、非常時に誰が何を行うかが曖昧になりやすい。安全計画の保護者への周知方法が確立されていないことも課題である。</p>	<p>訪問支援専用の事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアルを作成し、訪問先ごとのリスクを整理した上で対応手順を明確化する必要がある。職員向けの安全研修やシミュレーション訓練を定期的に行い、対応力を高めることが求められる。保護者への周知方法を整備し、安全計画をわかりやすく伝える仕組みを構築することで、安心感の向上につながる。</p>
---	--	---	---

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名	プレイジム					公表日	2026年 2月 12日	
						利用児童数	65	
							回収数 39	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	18	2	0	19	・今は使用していない様子です。 ・何を使っているかわからない ・姿勢を保ちやすい椅子などを使っていた ただし、活用できています。 ・直接見ることがないのでわかりません。 ・椅子に落ち着いて座れるような工夫をして頂き、ありがたいです。	・訪問支援で使用している支援機器や教材について、今後は保護者への情報提供を強化していきます。	
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	30	2	0	7	・整えられています		
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	38	0	0	1	・毎回訪問後に丁寧な報告があり、保育園の方とも共有してくれている		
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	34	4	0	1	・報告頂いています。 ・もう少し頻度を増やして頂きたい思いもあるが、事業所より提案がないので現状でいいのかわからないところもある。 ・個別で直接言語職覚士の方の指導はありがたい。	・訪問支援の頻度についてのご希望は、事後評価面談の際にじっくりとお話し、ご本人・ご家族の意向を大切にしながら調整してまいります。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	36	0	0	3	・園よりお世話になっているので、小学校での支援も子供の特性をよく理解していただいていると思う。 ・苦手なこと、特性にあった支援をして頂いています。		
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	38	1	0	0	・保護者の相談や困りごとに沿った計画書が作成されています。		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39	0	0	0	・子供本人らしさを尊重してくれている ・担任との関わりを直に見られていないので、わからない。		
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	35	1	0	3	・困りごとに合った支援内容になっています。		
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37	1	0	1	・特性や苦手さに配慮して頂きながら行われています。		
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36	0	0	3			
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	33	0	0	6			
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	39	0	0	0	・保護者に確認もあり、説明がありました。		
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	39	0	0	0	・ベアレントトレーニング参加したいです。 ・参加したいです ・案内もありました。	・家族支援については、継続的な取り組みを通じて支援体制の充実を図ってまいります。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ベアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	32	2	0	5	・デイや訪問支援でも様子を聞いています。		
	15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	39	0	0	0			
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	2	0	1	・特性を理解して、支援してくれています。		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	38	1	0	0			
	18 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	36	1	0	2			

	19	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	36	2	0	1		
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	38	0	0	1	・訪問支援して頂いてのおかげで、困りごとがありがたながらも受け入れてもらい、学校に通えています。ありがとうございます。	
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	34	1	0	4	・支援内容は事業所からレポートがあるが、担任との会話の中での内容は把握していない。	・今後、訪問先施設の担当者とのやりとりについて、保護者の皆さまにより詳しくお伝えできるよう、適切な様式や方法を検討してまいります。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	36	1	1	1	・いつも報告頂いています。	
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28	1	1	9		
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	38	1	0	0		
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	24	1	0	14		
満足度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29	0	0	10		
	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	36	1	0	2	・全く嫌がっていない	
	28	事業所の支援に満足していますか。	27	2	0	10	・信頼関係があると感じる ・先生に支援のアドバイスや話し合いをして頂けるので、ありがたいです。息子も特性を理解と配慮頂き、学校生活を過ごさせています。	

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日

2026年 2月 12日

プレイジム

利用児童数 65名

回収数 40

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	35	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援ツールや言葉かけの方法などを紹介していただき、すぐに取り入れることができました。 ・園の保育や教育課程、子どもの様子を理解した上で助言していただけるので、現場に合っていて取り入れやすいです。 ・「〇〇すればいいですよ」といったように、いつも具体的でわかりやすく教えていただけるので、ありがたく思っています。 ・日々の保育や授業の中で無理なくできることを提案してくださるので、すぐに実践に移せています。 ・園の体制や集団生活の流れを考えると難しいと感じることもありますが、説明自体はともわかりやすく、参考になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的で実践的な支援内容の継続提供 支援ツールや言葉かけの方法など、すぐに取り入れられる提案が高く評価されており、今後も現場で活用しやすい支援を継続する。 ●園の保育方針や教育課程に即した助言の充実 園の体制や子どもの実態に合った支援が求められており、現場理解に基づいた柔軟な対応をさらに深める。 ●集団生活への配慮を踏まえた支援方法の工夫 一部で取り入れにくさを感じる声もあるため、集団場面や園の流れに沿った支援の工夫と、導入しやすい形での

2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	40	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子を丁寧に観察し、アセスメントやK-ABC IIの結果をもとに教材や支援方法を提案していただけるので、納得感があり勉強になっています。 ・保育では気づきにくい視点から、子どもの見え方や感じ方について助言をいただけるので、保育教諭としても視野が広がりありがたいです。 ・自分にはない引き出しをたくさんお持ちで、「なるほど!」と思う瞬間が多く、専門的な知識や技術に満足しています。 ・手先の操作や体の使い方など、発達段階に応じた細やかな説明をしていただけるので、よりの確に子どもの姿を捉えることができます。 ・困ったことがあると、どうしたらよいか一緒に考えてくださり、将来を見据えた視点でのアドバイスもいただけるので、とても助かっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●専門的なアセスメントに基づく支援提案の継続 <ul style="list-style-type: none"> K-ABC IIなどの評価結果を活用した教材・支援方法の提案が高く評価されており、今後も根拠ある支援設計を継続する。 ●保育者の視野を広げる多角的な助言の充実 <ul style="list-style-type: none"> 保育では気づきにくい視点や、発達段階に応じた細やかな説明が役立っているため、今後も多面的な観察と助言を意識する。 ●困りごとへの共同検討と将来を見据えた支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> 支援者と一緒に考える姿勢や、将来を見据えたアドバイスが安心感につながっているため、継続的な対話と長期的視点を持った支援が求められる。
---	------------------------------	----	---	---	---	--

3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	37	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の指導で悩んでいることが質問することで解消され、具体的なアドバイスをいただけるので助かっています。 ・訪問のたびに一人ひとりの困り感について丁寧に提案していただき、すぐ実践できる内容を教えていただいています。 ・その場で回答しづらいことも、後日連絡をいただけるなど、誠実に対応してくださるのでありがたいです。 ・訪問支援員が来られるのが待ち遠しいほど、いつも質問にしっかり向き合ってください、一緒に考えていただけていると実感しています。 ・学年やクラスでの取り組みを踏まえた関わり方や、保育者としての支援方法についても、冷静かつ丁寧に提案していただいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●質問への丁寧かつ誠実な対応の継続 その場での即時回答だけでなく、後日の連絡によるフォローも高く評価されており、継続的な対応体制の維持が求められている。 ●個別の困り感に応じた具体的な支援提案の充実 一人ひとりの状況に合わせた実践的なアドバイスが現場で活用されており、今後も個別性を重視した支援の工夫が必要。 ●学級・学年の実態に即した支援方法の提示 保育者や教員の取り組みに寄り添った提案が信頼につながっているため、教育現場の流れや体制に合った支援設計が求められる。
---	---------------------------------	----	---	---	---	--

4	<p>保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。</p>	37	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援方法に行き詰まっていたところ、アドバイスを積み上げていくことで本人が大きく進歩し、困り感が軽減されました。 ・児に合った支援方法を提案していただけなので、少しずつ困りごとが改善されていると感じています。 ・日々変化するこどもの姿を共有しながら、タイムリーに助言をいただけることで、援助方法の幅が広がりありがたく思っています。 ・行事への取り組み方なども一緒に考えていただき、私たちの考え方も広がりました。 ・課題や困りごとは、解消したと思ったらまた出てくることもあります。スモールステップで確実に軽減されていると感じています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の変化に応じた継続的・段階的な支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> 困り感の軽減には時間がかかるため、スモールステップで支援を積み重ねる姿勢を継続し、変化に応じた柔軟な対応を意識する。 ●個別性を踏まえた支援方法の提案と実践支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりに合った支援方法の提案が効果を上げているため、今後も個別性に配慮した具体的な支援設計を重視する。 ●行事や日常活動への支援の広がり職員視点支援 <ul style="list-style-type: none"> 行事への取り組み方や日々の援助方法について一緒に考えることで、職員の視野が広がっている。今後も現場の実践に寄り添った支援を継続する。
---	--	----	---	---	--	--

5	事業所からの支援に満足していますか。	39	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも具体的に「～のときは〇〇すればいいですよ」と教えていただけるので感謝しています。丁寧な関わりと助言がありがたいです。 ・生徒を幼少期から見守っていただいているので、安心して相談できています。保護者との共有も細かくしていただけるので助かっています。 ・子どもたちの行動の意味や困りごとに合った援助、次の課題について一緒に考えていただけるととてもありがたいです。 ・訪問支援のおかげで日々の保育が楽しく感じられています。こどもたちの成長や日常の気付きにもつながっていて、とてもありがたく感じています。 ・専門的な視点での助言だけでなく、私たちの思いや考えにも耳を傾けてくださり、一緒に考えていただけるので、大変満足しています。 <ul style="list-style-type: none"> ●具体的かつ丁寧な助言の継続と共有の強化 「〇〇すればいいですよ」といった実践的な提案が好評であり、今後も丁寧な関わりと具体的な支援方法の提示を継続する。 ●保護者との連携支援と相談体制の充実 幼少期からの継続的な支援や保護者との細やかな共有が安心感につながっているため、家庭との連携を意識した支援体制を強化する。 ●現場の気づきや課題に寄り添う協力的な支援の推進 子どもの行動理解や課題整理を一緒に考える姿勢が信頼につながっているため、専門的視点と現場の思いを融合
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 其他のご意見 ご意見を踏まえた対応 </div>					
<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりに合わせた支援方法を根気強くご指導いただき感謝しています。授業法や多人数の教室での対応についてもご助言いただけるとありがたいです。 ・すぐに答えを出すのではなく、一緒に悩んでくださる姿勢に安心感があります。訪問時に次回の予定がわかると嬉しいです。 ・保護者と同席して支援していただけることで、児童の生活がより生き生きとし、教員と家庭の連携がしやすくなりました。 ・教材の工夫や支援方法の開発を通して、児童の情緒が安定し、成長を感じられるようになりまし <ul style="list-style-type: none"> ●授業法や多人数学級での支援方法の強化 生活面だけでなく、授業の進行や教育法に関する助言、特別支援級・交流学級など多人数環境での支援方法の工夫が求められている。 ●個別支援の集団への応用と継続的フォロー 個別の支援内容を集団生活にどう取り入れるか悩む声があり、継続的な相談対応と段階的な支援提案が必要。 ●教材の共同開発と汎用性のある提案 					

た。頼りになる存在です。

・子どもや家庭だけでなく、教室の状態に合わせた助言や教材の提示が分かりやすく、より良い環境づくりに役立っています。これからも変わらぬ支援をお願いしたいです。

・訪問に来られた時に、次回の訪問日がわかると嬉しいです。

具体的な教材の紹介や共同制作が現場で活用されており、今後も汎用性のある教材提案と支援の工夫が期待されている。

●保護者との連携支援の継続と促進

保護者同席での支援や家庭との連携が支援の質向上につながっており、今後も橋渡し役としての支援体制の強化が望まれる。

●訪問支援の見通しと安心感の提供

訪問日程の事前共有や、支援者が一緒に悩み考える姿勢が安心感につながっている。見通しを持てる支援体制の工夫が求められている。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ブレイジム		公表日 2026年 2月 12日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・ 整備・ 運営・ 体	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3	1	・利用児に合わせて、教具教材を用意している。 ・園とも相談しながら、利用児に必要な教材を検討し使用している。	・訪問支援時に常に携帯する道具が十分ではないときもある。 ・必要に応じて訪問施設でも修正、追加しやすい物を提供できるよう工夫していく必要がある。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	・利用希望者に対しての職員配置は少ない。 ・言語面の支援希望が多いため言語聴覚士の立案した支援プランに基づき、他のスタッフが支援する体制などの工夫をしている。	・言語面での支援を行う職員の増員を検討する必要がある。
業務 改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	・定期的に訪問支援に関するミーティングを行い、業務改善を進めている。	・会議などの場で、全職員が参加した使った振り返りは不十分である。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・保護者評価をもとに業務改善に努めている。訪問支援では、保護者と顔を合わす機会が少ないとの意見をもらったため、顔を合わせる機会を以前よりも増やしている。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・日々のミーティングや訪問支援に特化したミーティングで、職員の意見を把握する機会を設け、業務改善につなげている。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1	・第三者による外部評価は行っていないが、訪問先施設からの意見を忌憚なく出していただくよう声掛けしている。 ・昨年度の評価内容をミーティングで共有し、自身の業務と関連付けて考えることができた。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	・各人に合う研修への参加を提案されることが受講したい研修への参加費などを法人に負担してもらえらる。 ・法人内で職員同士での研修会の機会もある。	
適切 な 支援 の 提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	1	・本人や保護者のニーズ・課題を児童発達管理責任者とともに分析し、支援計画を作成している。 ・妥協なくやっている。 ・学校・園での様子の観察と保護者からのニーズや希望を面談で聞きとり、それらを元に学校・園の環境も考慮して支援計画を作成している。	・アセスメントがきちんとできていないことがあるので、観察できたことを記録に残すことから改善する必要がある。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	・児童発達管理責任者だけでなく、子供に関わる職員が参加し、支援経過を作成している。 ・支援計画作成会議の場で職員間で検討する機会が必ず設けられている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	4	0	・事後評価面談を行う際、訪問施設の担当者にも入っていただくようにし、施設の意向もその場で聞くようにしている。 ・支援計画原案検討の会議で園の意向を聞き取り、計画に反映させている。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1	・複数の支援員で訪問する際には、支援共有シートを確認することで、他の支援員の支援内容や引継ぎ事項が分かるようになっている。	・目標未達成のことが多いので、目標設定した時点から具体的な予定を立てるなどの改善が必要。 ・計画に沿った支援を実施するよう努めているが、ケースによっては充分でないこともある。
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	・子どもの行動などを標準化されたアセスメントと、本人の園や学校での姿からアセスメントを行っている。 ・必要な領域についての検査を随時行うことができている。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	・現場で子供たちに直接使えるような具体的な支援の内容を実際に行って見せるなどして提案するようにしている。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	・支援シートを作成することで、一緒に支援に入っている他スタッフとも共有しやすくなっている。	・原案の検討や本案を職員間で共有し、計画に沿った支援を実施するよう努めているが、ケースによっては充分でないこともある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2	・支援前に担当職員間で打ち合わせを行い、支援内容や役割分担について確認をしていることが多い。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	1	3	・支援終了後に、担当職員間でその日の支援についての振り返りを行い、気づいた点などを共有するようにしている。 ・疑問に感じたり、悩んだ時にはしているが、必ずではない。	

	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	4	0	・訪問先のおおまかな情報を事前に把握し実施している。	・訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行うよう心がけているが、訪問先はそう感じていないこともあるかもしれない。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	4	0	・支援についての記録をつけながら、支援内容の検証改善につなげるよう努めている。 ・定期的な過去の支援内容を振り返り、その時の解釈が合っていたか、矛盾がないかを確認している。	・記録の書き方については、端的で明確な内容になるよう改善が必要。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	・保護者や訪問先の移行の確認を定期的に行い、児童発達管理責任者にもモニタリングを実施してもらい、必要性の判断や見直しを行っている。 ・訪問先の担当者との話し合いの時間を大事にしている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・担当者会議には、訪問支援担当者と児童発達管理責任者が出来る限り出席するようにしており、都合がつかない場合は児童発達管理責任者のみが参加している。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2		・必要に応じて随時連携を取れる体制は整えられているが、実際に連携する事は頻回ではない。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	・保育所等訪問支援の支援内容や利用時の特性などをまとめ、申し送りを作成し、必要に応じて会議などを設けている。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	1	・外部の専門家に助言を受ける事は無いが、外部の研修には参加している。 ・職場内でも助言を受けることができる。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	1		・訪問支援員が自立支援協議会の子供部会などに参加する事はあまりない。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	・日々の支援内容や子供の状況を連絡票を通じて、保護者と共有するとともに、メールや電話などで課題についての検討を行うなどしている。	
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	・家族支援プログラムや保護者懇談会などを実施している。 ・事業所が主催する外部向けの講演会への参加の機会も提供し、保護者などの関係者は無料にするなど参加しやすくしている。	
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	・契約時に説明されている。 ・費用(実費)が発生する時には、事前に伝えている。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4	0	・支援開始前の担当者会議の時に、事業の趣旨や訪問支援の目的等について説明し、合意を得ながら実施している。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	・支援計画を作成する際に、モニタリングを行い家族の意向を確認している。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4	0	・個別支援計画を示しながら、保護者へ説明を行い、同意を得ている。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	0	・家族からの子育てに対する悩みなどをメールや面談時にお聞きして助言を行っている。 ・訪問先の先生方からも保護者の様子をお聞きし、必要に応じて保護者とメールや電話で連携するようにしている。	・事後評価面談以外に定期的な面談は設定されておらず、保護者からの申し出に応じて随時対応している。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1	・保護者支援の1つとして、保護者同士が交流する場(懇談会や座談会)を設けているが、きょうだい同士で交流する機会はない。	
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	・相談の体制を整えており、その旨を契約時に保護者に伝え、相談の申し入れがあった場合は、対面だけでなく電話、メールなど様々な媒体での対応を行っている。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	2	・定期的ではないが、メールにて通信等を発行している。	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	・訪問支援の際も個人情報の取り扱いには充分注意している。 ・定期的にセルフチェックシートにて職員各自で意識できるようにしている。	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	1	・サポート共有シートを保護者とも共有し、支援内容を共有できるようにしている	・利用時や保護者の意思疎通のための配慮を行っているが、充分とは言えない。

訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3	1	・訪問日程の調整の時に、あらかじめ最近の様子などをお聞きし、訪問時に伝えられるようにしている。 ・その場で助言が行うことが難しい内容は、事業所に持ち帰り、職員間で検討してから返すなど柔軟に対応できる体制がある。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4	0	・訪問支援の中やその後、電話などで必要な情報交換を行うようにしている。	・訪問先の事情に合わせた時間帯で行うための時間が取りにくいことがある。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4	0	・連絡票をメールで送り、訪問支援時の子供の様子や支援内容を伝えている。 ・必要に応じてメールや電話で追加の報告を行うような支援も行っている。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	・資料に記載の名前などが見えることのないようにするとともに、支援児以外の子どもたちからの質問には個人情報漏れないように回答するようにしている。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3	1	・その場で助言が行うことが難しい内容は、事業所に持ち帰り、職員間で検討してから返すなどの対応もしている。	・専門的な助言が十分できていないときもあるので事前準備を十分にして訪問に臨むなど改善が必要。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	0	4	・訪問支援としては訓練等を実施していない。	・通所支援のマニュアルを流用することができないこともあるので、訪問支援時における各種マニュアルの作成が必要。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	・訪問支援に特化したものではないが、事業所として整備している。	・訪問支援に特化したものを作成する必要あり。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1	・ミーティングの場で職員間で共有し、再発防止についても検討している。	・ヒヤリハットの報告は少ないため、今後意識しヒヤリハットを作成していく必要がある。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	・事業所内で職員の研修などを実施している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、保育所等訪問支援計画に記載しているか。	2	2	・保育所等訪問支援で支援者が身体拘束をすることはこれまで無いため作成していない。	